

緑のダム（水源涵養施策）の推進について

～ 森林の公益的機能の発揮 ～

資料6

1 経緯

- ・平成 18 年 1 月の額田町との合併により、乙川流域が全て岡崎市に含まれることになった。
- ・本市の水道水源の約 50%を乙川が担っており、岡崎市の水がめと言えるその水源を良好に保全していくことが最重要課題となっている。
- ・平成 27 年 6 月市議会で原田議員の一般質問に対し、水循環推進協議会の専門部会で森林の多面的機能に関し調査研究すると回答する。

2 検討

- ・平成 27 年、水源涵養に関する施策を検討するため、岡崎市水循環推進協議会に専門部会「緑のダム部会」を設置した。
- ・部会は、東京大学大学院の蔵治准教授を部会長に、長谷川氏(ビオトープ管理士)、眞木氏(森林組合)、公募委員ら 8 名で構成される。
- ・平成 27 年度：諮問、現状把握（森林の現状と現地調査、問題点の整理など）
- ・平成 28 年度：施策の取りまとめ、答申予定

3 新たな施策案(水源涵養)

(1) 放置人工林の水源涵養林への転換（針広混交林化）

水源涵養機能を高めるため、放置人工林(約 4, 300ha)を 20 年間で針広混交林に転換させることを目指す。

具体的な間伐面積は、来年度の森林整備ビジョン アクションプランで策定予定

(2) 里山の保全

水とみどりの森の駅事業の展開

(おおだの森、自然体験の森)

あいち森と緑づくり事業(里山)を活用

(現在、岩中町岩谷観音周辺の里山を想定)

(3) 敷地境界及び森林所有者の明確化

地域リーダーの養成

境界測量作業の迅速化の検討

* 施業面積(施業境界)の確定

(4) 水循環影響調査によるモニタリングなど

間伐による水量流出量の調査（東京大学との共同研究 10 年間）

事業費概算 初年度 1,000 万円、2 年目以降 500 万円

(5) 啓発事業の強化

水源林の普及啓発(環境教室、シンポジウム、上記モニタリング施設の見学等)

市民の森づくりへの参画(乙川サミット、上記地域リーダー等)

